

1. 評価結果概要表

作成日 2009年5月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2672900293
法人名	社会福祉法人 秀幸会
事業所名	グループホーム 京都ひまわり園
所在地	〒614-8062 京都府八幡市八幡清水井20 (電話) 075-983-8841

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成21年3月22日	評価確定日	平成21年5月31日

【情報提供票より】(平成21年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	11人, 非常勤 5人, 常勤換算 12.37人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての 1階～ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有()	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(25万円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または 1日あたり 1350円			

(4) 利用者の概要(1 月 23 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八幡中央病院、いばら木整形外科、金井クリニック、本田歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

八幡市の中央部に1994年に特養を開設し、ユニットケアやケアハウスの運営などに取り組むなかで、5年前に立ち上げられたグループホームである。新築の洋風館であり、前庭に広い芝生があり、畑や花壇もあるので、利用者の生活が豊かになっている。畑や花壇の世話をしている職員を利用者が収穫祭のときに表彰してくれた。この1年、管理者は地域との交流に力を入れており、運営推進会議で地域情報をもらい、芋ほりや盆踊りなどにさそってもらっている。ひまわり祭りやホームの収穫祭には地域の人たちが参加してくる。題字を利用者が書いている広報誌『お便り』を年4回発行し、また年数回家族を行事招待し、そのうち2回は家族だけで話し合う家族会を開催するなどにより、家族がホームの運営に積極的に参加されるなど、家族との関係が良好である。開設以来関わっている管理者は認知症に理解が深く、2人のリーダーとともにしっかりした介護観をもち、5年経過したなかで重度化してきている利用者の対応に取り組んでいる。リーダーの1人が調理師の資格をもっていることもあり、毎日の食事はユニットにより献立が異なり、季節感のある和風献立で、食材買い物も含めて利用者の大きな楽しみである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘された点を職員一同が受け止め、改善に努力している。昼食後の口腔ケアに取り組んだり、水分摂取量を記録したり、記録の書き方について研修に参加したりしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価にあたって自己評価は全職員が取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は要綱を作成し、家族、区長、民生委員、八幡市高齢介護課課長がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。地域の情報を得ることができ、利用者が参加したり、家族会ができるきっかけとなるなど、有意義な会となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	広報誌『お便り』は年4回発行されており、多くの写真がグループホームの取り組みを語っている。題字は毎回利用者が書いているのも親しみやすい。新年会、日帰り旅行、収穫祭、一泊旅行、グループホーム開設記念祭、餅つきなど、家族を行事招待しており、半数以上の家族が参加されている。年2回は行事のあとに家族会が開催され、内容を代表がまとめてグループホームに伝えている。意見には対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、回覧板により、互いに情報交換できている。区の公民館祭り、盆踊り、敬老会等に参加している。利用者が散歩の途中で挨拶や会話ができている。老人会の会員が手品の披露にきたり、中学生が体験学習に来たりする。地域住民であるボランティアは楽器の演奏や踊りを見せてくれたり、定期的に傾聴ボランティアも訪問してくれる。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念は「照千一隅」であり、それを踏まえてグループホームの理念は「第二の我が家、第二の家族」を掲げている。これは開設時に職員が話し合っただけのものではない。玄関とスタッフ室に掲示し、広報誌には毎月掲載し、家族や地域へ周知を図っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホームの理念は、グループホームとは何かという話し合いから始まっている。利用者に日常生活を当たり前にしてもらう。そのための陰の力となることだと、職員は話し合っている。職員はここで「家」をつくっていかうとしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会とは区長の配慮により、互いに情報交換ができています。区の公民館祭り、盆踊り、敬老会等に参加している。利用者が散歩の途中で地域の人と挨拶や会話ができています。老人会の会員が手品の披露にきたり、中学生が体験学習に来たりする。地域住民であるボランティアは楽器の演奏や踊りを見せてくれたり、定期的に傾聴ボランティアも訪問してくれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価にあたって自己評価は全職員が取り組んだ。前回の評価で指摘された点を職員一同が受け止め、改善に努力している。昼食後の口腔ケアに取り組んだり、水分摂取量を記録したり、記録の書き方について研修に参加したりしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は要綱を作成し、家族、区長、民生委員、八幡市高齢介護課課長がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。地域の情報を得て利用者が参加したり、提案により家族会ができるきっかけとなるなど、有意義な会となっている。		

京都府:グループホーム京都ひまわり園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症サポーター研修を市と共催で、昨年3回実施し、管理者が講師となっている。民生委員への研修も実施している。地域住民や家族から相談を受けた場合、必要なら市に連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は毎日くる人から半年に1回くらいの人まであり、面会時に情報交換したり、電話で連絡したりしている。利用者の写真はアルバムにし、家族に見せており、注文があれば焼き増ししている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	広報誌『お便り』は年4回発行されており、多くの写真がグループホームの取り組みを語っている。題字は毎回利用者が書いているのも親しみやすい。新年会、日帰り旅行、収穫祭、一泊旅行、グループホーム開設記念祭、餅つきなど、家族を行事招待しており、半数以上の家族が参加されている。年2回は行事のあとに家族会が開催され、内容を代表がまとめてグループホームに伝えている。意見には対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間退職は1人、法人内異動は1人で、落ち着いた態勢になっている。法人の都合による異動はしないという方針をもっている。退職や異動の場合は利用者と一緒に送別会や歓迎会などを行っている。なるべく離職を防ぐために、シフトの希望には応じており、夏期休暇などの連休取得も可能である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は認知症、接遇、口腔ケア、排泄、移動、リスクマネジメント、緊急対応等のテーマで毎月実施され、受講されている。外部研修は情報を流し、受講を促している。認知症、救命講習、食事、バリデーション、記録の書き方、実践者研修等が受講されており、詳細なレポートが残されている。資格取得には勉強会や模擬試験などの支援があり、資格手当も支給される。個人の目標に対する支援は法人として現在計画中である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八幡市内のグループホームは現在当事業所だけなので、市内の小規模多機能型居宅介護事業所と交流したいと考えている。今までに職員は枚方市、京都市、宇治市のグループホームなどを見学している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には本人および家族に見学に来てもらっている。レクリエーションにも参加してもらい、お茶とお菓子で話をしている。そのときなどに、利用者が家でどのように過ごしているのかを聞き、利用が始まったあと、好きなことをしてもらったり、家族から電話をかけてもらったり、季節ごとに家につれて帰ってもらったり、外出などをしてもらうよう、家族の協力をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は介護されることに引け目を感じており、「ゴメンネ」という言葉が出るので、気持ちの負担にならない介護を心がけている。入浴のときなどは介助するよりも利用者にしてできるだけ自分でしてもらったり、掃除がきれいにできなくても「ありがとう」と言っている。利用者は自分が迷惑をかけている暮らしに、常に悲しみをもっている一方、相手にやさしい気持ちをもっていることが言葉の端々からわかり、職員は癒されていると感じている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の申込時には家族構成、生活状況、医療情報等の情報を収集している。生活歴は生まれたときから、学歴、職歴、結婚生活、趣味・嗜好等々が記録に残されている。東京センター方式にも挑戦しようとしており、職員にシートを記入してもらうなど、意識付けをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時には管理者とケアマネジャーがアセスメントをとり、介護計画を作成し、職員会議で職員の意見を聞いて介護計画を作成している。なるべく歩いてもらうための工夫やトイレ誘導の声かけの工夫など、出た意見を介護計画の注意点として書いている。上記で収集された生活歴や趣味・嗜好が反映した介護計画がつくられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の毎日の記録は「実施記録表」に、時間にしたがって記されている。介護計画を実施したかどうかとそのときの利用者の様子は書かれている。介護計画は1年に1回見直しているが、その際に再アセスメントは実施されていない。カンファレンス会議の記録は結論のみが書かれている。	○	介護計画の実施記録は、実施したかどうかだけではなく、利用者の拒否により実施できなかったときの利用者の様子も記録に残し、職員の考察を書くこと、カンファレンス会議は職員のさまざまな意見を記録に残すこと、以上の記録を根拠として介護計画の評価を毎月実施することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性と生かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの向かい側に同法人の特養があり、そのバックアップは大きい。看護師や栄養士に相談したり、研修を共に受講したりしている。また利用者は行事に参加したり、一泊旅行は合同で実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医への受診は家族に任せており、サマリー交換もしている。家族の希望により、職員が受診に同行する場合もある。歯科医は毎年全利用者を検診してくれており、往診もしてくれる。認知症に関して協力医院と情報交換しており、受診もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者一人ひとりのかかりつけ医が異なり、その医師が協力してくれる場合、すなわち医師が往診してくれ、24時間オンコールに応じてくれるなら、グループホームとしてのターミナルケアを実施する方針である。利用者や家族とはそういう内容を説明して同意してもらっている。職員は医師が協力してくれるなら、がんばるという思いもっている。ターミナルケアのマニュアル作成と職員研修が望まれる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室はなかから施錠できるようになっており、鍵をかける人もいる。トイレの戸も鍵をかけることができる。トイレ誘導等の声かけは十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床は4時くらいの人から、10時まで寝ている人まで自由である。就寝も7時に寝る人から10時まで起きている人までである。利用者の生活習慣を尊重しており、新聞をとりこんだり、ゴミを捨てに行くことを支援している。		

京都府:グループホーム京都ひまわり園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日利用者の希望により献立をたて、食材の買い物に利用者とはかけかけ、米は地元産、畑で採れた野菜も使われる。献立は昔ながらの家庭的なものである。利用者は調理から後かたづけまで、できることを支援されている。すきやきやホットプレートのやきそばなども献立に上る。食卓の一輪挿しに菜の花が生けられ、職員も共に食べながら会話が弾んでいる。庭でバーベキューをしたり、お弁当をもって花見に行ったりする。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は広いが浴槽は1人用で落ち着くお風呂である。夜間入浴も毎日の入浴も支援している。マンツーマンの同性介助である。ゆず湯なども楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は食材買い物や調理などのほか、洗濯物干しや洗濯物を取り入れて畳むなどの家事、畑や花壇の水遣りと収穫などの役割を果たしている。ホームないでは塗り絵、書道、歌、カルタ、トランプ、オセロ、おやつづくり、バースデーケーキのデコレーションなどを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物に毎日出かけ、敷地内や近くの公園への散歩も毎日している。ライオンズクラブの招待で芋ほりに行き、芋てんを食べたり、文化ホールに和太鼓の鑑賞に行ったり、石清水八幡宮に初詣、枚方に梅見など、季節のお出かけもしている。神戸王子動物園と淡路夢舞台への1泊旅行も実施されている。利用者の希望により、以前住んでいた家を見に行き、近所の人と会話したり、馴染みの饅頭屋さんで買い物したりという個別外出も支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路からの門扉、玄関ドア、勝手口等、日中は施錠されていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、感知器、通報機が設置され、スプリンクラーは今後の予定になっている。防火管理者がおり、消防計画を立てている。備蓄の準備がある。地域との防災協定はないものの、ホームの裏が職員の実家であり、道路をはさんで向かい側には同法人の特養や理事長の家があるので、協力を得られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量と水分摂取量は記録に残されており、毎日の献立のカロリー値と栄養バランスについては法人の管理栄養士に点検してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	道路から低い鉄柵を入ると、左手の芝生にテーブルと椅子があり、お茶をしたり、バーベキューパーティーをしている。右手の奥には畑や花壇があり、季節の野菜、花が植えられている。中央に居間兼食堂があり、その周りに居室がある。居間から全面ガラス戸を通して庭や通りが見える。居間や階段の壁には利用者が書いた書、写真家の風景写真、水彩画、利用者が作ったアート画、隅の本棚には雑誌や料理の本があり、畳コーナーには雛人形やぬいぐるみなどが飾られ、やわらかい雰囲気になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には一室ずつ違う柄の暖簾をかけている。居室は板敷で、畳や絨毯を敷き、ベッドを置いたり、畳に布団で寝ている人もいる。どっしりした古風な整理ダンス、安楽椅子、机、テレビ等を持ち込んでいる。畳に机と座布団を置き、机の上にお茶セットとノートや筆記用具を置き、今席を立ったばかりという風情の部屋もある。壁には自分が描いた水彩画や書、般若心経の書写を飾り、本棚に絵手紙の書き方など趣味の本を並べている。机の上に夫の写真を飾っている。		